

社会福祉法人 光寿会

2022年8月16日(1)

お盆 280号

発行

特別養護老人ホーム光寿苑

まんさく編集委員会

和賀郡西和賀町湯本30-76-1

TEL 0197-84-2526

題字 元理事長 太田 祖 電

まんさく



盆踊りの雰囲気の中、お年寄りたちのはじける笑顔に久々にお会いできました♡

光寿苑の盆踊り (^ ^ ♪ 《令和4年8月4日》

光寿会ホームページは『光寿会 にしわが』で素早く検索できます(^ ^ ♪

令和4年度の光寿会全体のテーマは「続・知る」

【生活】「③栄養士・調理部門」 ☆高橋奈々子☆

令和3年度下半期のイメージ	テーマ	季節感を感じてもらえるような食事を提供する。	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		お年寄りの声を聴きながら、食事から季節を感じて頂けるようにしたい。	美味しく、安心・安全な食事づくりをする。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①調理職員が昼食時に2名ずつ交代でお年寄りの元へ行き、声掛けしつつ、食べたい物や苦手な物等も聴いてくる。 ②引き続き、季節を感じて頂けるような献立や食材を取り入れる。甘えっこやおしるこ等の冬のおやつを多く提供したい。	①全ての作業は『最終的にはお年寄りの元へ行く』ことを忘れず、衛生面等も含め、『あたり前のことをあたり前に』作業する。 ②付け合わせを利用して、彩りに配慮した献立を考える。 ③看取り期のお年寄りに、食べたい物を少しでも食べて頂けるよう皆で協力する。	



令和3年度を振り返って	法人キーワードに対して	※ お年寄りの元へ出向き、お話を聴いてくることで、食の好みを知ることができればと思ったが、中々実行できなかった。	
	テーマに対して	※ 行事食や季節の食材を取り入れて、少しでも季節を感じて頂けることができたのではないかと思う。	
	各目標等に対して	<p>【目標①】</p> <p>※お年寄りの元へ出向き、声掛けをする目標を立てたが、あまり実行できなかった。 ※頂いた食材や旬の食材を献立に取り入れて、お年寄りに食べて頂くことができた。 →甘えっこは複数回おやつに出すことができた。次年度はおしるこも出せるようにしたい。</p> <p>【目標②】</p> <p>※配膳ミス等の大きなものはなく、お互い声を掛け合い、毎日お年寄りに安心・安全な食事を提供できたと思う。 ※彩りが単調にならないように配慮したが、欠けている時もあった。引き続き、気をつけていきたい。 ※看取り期のお年寄りへの食の対応は個別にできている。これからも続けていきたい。</p>	



法人キーワード	令和4年度共通のキーワードは『続・知る』		
令和4年度上半期のイメージ	テーマ	季節感を感じて頂けるような食事を提供する。	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		お年寄りの声を聴きながら、食事から季節を感じて頂けるようにしたい。	美味しく、安心・安全な食事づくりをする。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①「1日1回」お年寄りの傍に行き、笑顔で声掛けをする。 →お年寄りの声を厨房に持ち帰る。 ②外に出る事が難しい状況の中で、苑の中でも少しでも季節を感じて頂けるような献立や食材を取り入れる。	①全ての作業は『最終的にはお年寄りの元へ行く』ことを忘れず、衛生面等も含め、『あたり前のことをあたり前に』作業する。 ②彩り・味付けを工夫して、普通食からソフト食まで美味しく仕上がり、お年寄りが安心して食べて頂けるような食事づくりをする。 ③看取り期のお年寄りに、食べたい物を少しでも食べて頂けるよう皆で協力する。	

全体テーマを基として各部署で目標設定しました

【生活】「⑦介護部門…こまち通り」 ☆金子利加子☆

令和3年度下半期のイメージ	テーマ	お年寄りと目線を合わせて思いを「知る」	
	理想像	目標 ① お年寄り一人ひとりに向き合っていく	目標 ② 今日が最期の日になっても後悔しない介護 お年寄りに安心した暮しを送って頂く
	具体的な取り組み (いつ、何を、どのように)	①自分がされて嫌な介護はしない。 ②仕事に入る前は、気持ちを整える。 ③身体の苦痛を軽減する工夫をしていく。 ⇒職員が体験をし、その状態を確認する。 ④お年寄りの動作・時間軸に合わせる。 ⇒「待つ」という心のゆとりを持つ。 ⑤報告連絡相談をしっかりとっていく。	①言葉を交わす時間を大切にする。 ②日々の生活や様子を写真に残していく。 ⇒その時の状況が分かるように、撮影の仕方を工夫する。 ⇒3ヶ月に1回ペースでプリントアウト ⇒DVDを作成していく。 ③オンライン面会等を勧め、家族と会う時間を創っていく。 ④気になるお年寄りについては、ユニット内でケアカンファレンスを開き、見直し・共有していく。



令和3年度を振り返って	法人キーワードに対して	※ 概ねできたが、今後の課題も多かった。	
	テーマに対して	※ お年寄りの思いを「知る」ことは概ねできたと思うが、コロナ禍で生活が大きく変化したことにより、「思い」に対応することが難しかった。	
	各目標等に対して	【目標①】 ※「身体の苦痛を軽減する工夫」については、研修委員と連携しポジショニングに取り組み実施出来たが、身体の苦痛の軽減については今後の課題となる。 ※「報告連絡相談」については、業務を見える化（排泄表の利用等）し、スムーズに行えた。 【目標②】 ※「日々の生活や様子を写真に残す」については、3ヶ月に1回のペースでプリントアウトし、お年寄りに喜んでいただけた。 ※「DVDの作成」については、作成した物をご家族に渡せた。 →ご家族が見ることができなかった苑での暮らしをお伝えすることができた。 ★コロナ禍でのお年寄りをご家族の関わり方を、今後の課題として取り組んでいきたい。	



法人キーワード	令和4年度共通のキーワードは『続・知る』		
テーマ	みんなを知る		
令和4年度上半期のイメージ	理想像	目標 ① 1日1回、離床して皆で過ごす。	目標 ② 今日が最期の日になっても後悔しない介護
	具体的な取り組み (いつ、何を、どのように)	①1日1回、離床する。 ⇒ベッドから離れる事で、シーツのしわを伸ばす事ができる。 ⇒しわのないベッド上で褥瘡になりにくくなり、身体の苦痛の軽減に繋がる。 ⇒皆と過ごす事で笑顔になり、職員も含めてお互いを知る事ができる。 ②介護技術の向上 ③気持ちよく過ごせるように環境を整える。	①言葉を交わす時間を大切にする。 ②コロナ禍での家族との関わりを考え、取り組んでいく。 ⇒写真のプリントアウト ⇒DVDの作成 ⇒家族への連絡 ⇒オンライン面会等 ③気になるお年寄りについては、ユニット内でケアカンファレンスを開き、見直し・共有していく。



家族を大切に育てた親心はやがて、
子孫のばあちゃん想いの心へと…

『今生より 往く』

照井マツノさん【97歳】

♪ドソソ節♪が好きな方で、手で拍子を取ったり、声を出して歌っている時もありました。お孫さんから、「大好きな、おばあちゃんです♡」と♪表情からも、優しく伝わってくるマツノさんでした。ご家族と職員皆に見守られながら往かれました。ありがとうございました。

《真衣、典子、ツアガーン》

おかげさまでした

寄贈

- ★ 照井 秀夫 様 [川 尻]
- ★ 光寿苑家族会 様
- ★ 和賀クリーニング 様
- ☆ 高橋 康文 様 [新 町]
- ☆ 照井 秀夫 様 [川 尻]
- ☆ 高橋 美知子 様 [上野々]
- ☆ 柿澤 成憲 様 [鍵 飯]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
- ☆ 高橋 郁子 様 [清水ヶ野]
- ☆ 佐々木 里子 様 [北上市]
- ☆ 菅原 幸悦 様 [滝沢市]
- ☆ 小松 陽子 様 [秋田県]
- ☆ 中田 幸子 様 [東京都]
- ☆ 高橋 純 様 [神奈川県]
- ☆ 山口 要子 様 [奈良県]

(7月1日～31日)

面会・外出

- 【面会】家族、親戚、知人等
対面 延べ 26組 (68名)
- 窓越し 延べ 3組
- オンライン 延べ 5組
- 【外出】家族等
自宅等 5件

寄附

- ★ 匿名 様 [西和賀町]

★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

光寿会へのご支援

光寿苑の新しいお仲間
をご紹介します♪

高橋サダさん
*西和賀町
*昭和のお生まれ



『共生の場』 へようこそ♪

想

災害を捉える ～北海道から発信します④～

『水平なる心配心』… 教証寺住職 寺澤三郎 さん

光寿会理事長と大学時代の同期生。災害の根本には人間の煩惱が関わっている。そのような視点を踏まえてこのコーナーをご依頼しております。この度、4度目のご発信です(^_^)

天災・人災に襲われ続ける時代にあって思い通りにならない世を生きる視点

論理的に正しいといふことは、必ずしも人間を生かさない。

私の自宅から20kmほど離れた一軒家に、89歳の父親と84歳の母親が暮らしている。高齢になり、今まで自分の力でやれていたことや一つひとつできなくなると、そのようにな自分自身を「ダメになった」とぼやく日々が多くなった。私は日傘の買い物や病院への送迎等、両親が自力でやれなくなったことをできるだけサポートするようにしている。高齢者の友人たちとも交流の減った父親は、用事を思いつくたかに私へ電話をしてくることも増えてきた。多分、人との会話が減り寂しいのだらうと思う。しかし、私は仕事で忙しい毎日である。ある時、私は、

▼俺は多忙の中をやりくりしてサポートしているのだから、用件はまとめて伝えてもらいたい一度で多くの用事を済ませるようにしてくれないか。

と父親に伝えた。すると父親は、

▼そうか分かった。俺はこれでも、お前に気をつかいながら

類似事をしていっているつもりなんだ。お前に余されないように生活しているんだぞ。

と、寂し気に私に返答したのだ。

何気に怒せられたこの父親の言葉が頭から離れず、しばらく考えさせられていた。

仏教の大きな課題の一つに「老苦」ということがある。「老」は

「年齢を重ねると」ということと、「経験を重ねてきた」ということとの内容を持つ。そこに「苦しめ」が生じる。それが「老苦」である。

年齢を重ねると身体的機能が低下し、今までやれたことができなくなる。その結果、他者の助けを借りなければ生活できなくなる。だから助けてもらおうために周囲に気をつけよう。さらに余されないように、見捨てられないように生活せざるを得なくなる。本人がとても窮屈なのは間違いない。

ここで問題なのは、助けをもらう側（父）は、できなくなった劣等感と余されないようにするため窮屈さ。

一才、助ける側（私）は、上から目線の助ける意識と自分の「論理的正しさ」でサポートしようとする合理性という点である。

この両者には、水平なる人間関係は全く存在していない。存在しているのは、上下と優劣という歪んだ関係性である。

ここで考えなければいけないことがある。助けてもらう側は、できなくなったり自分の劣等感から解放されていく感覚を持つ生活。助ける側は、「上から目線の差別性」を課題にし続ける生活である。助けられる人も、助ける人も水平なる心配りの関係性で日暮らしできたらどんなに素敵だろう。災害時も同様のことか言える。

私はこれを「水平なる心配心」と名づけた。どんな時も、お互いの「いのち」を小馬鹿にすることのない日暮しを願って。



寺澤三郎

通称「サガさん」として、皆から親わ承っている若手のリーダー

（続）

今月の登録者の方々
12名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

蒸暑い日が続いても元気！…「ひなたぼっこの日常」



【上段】サロン買い物ツアー 【左下】警察官より護身術講習中 【右下】誕生日カード代読中

職員募集中

光寿会では、お年寄りと人生を一緒に楽しんで下さる方をお待ちしております(^_^)

- ☆介護職員 (資格不問)
- ☆調理職員 (")
- ☆看護職員 (有資格者)
- ☆管理栄養士 (")



第105回

お年寄りとご家族との対面の面会を継続して参りたい。そのためにも、移動式手洗い器を大いに活用させて頂きます。ありがとうございます。

105回目は、家族会より「移動型手洗い器」の寄贈式です。代表の佐々木一会长より、ありがたく承りました(^_^)



移動型なので幾多の場面で柔軟に対応できます ⇒

元気です！家族会♪

光寿苑のかお

【入居者紹介】



高橋吉夫さん

由西和賀の沢内から
やさきお父さまです

【担当・佐々木しおり】

昔から、他人と寄合のが苦手で、何でも一人してこなしでたな。とおっしゃるシャイな吉夫さん。読み書きが得意で、学校の成績は常に上位だったようです。家族や奥様とも話をする事が少なかったけれど、一方でお友だちとお客様との会話には花が咲くほどだったという社交性も豊か。光寿苑では食べる事が一番！食べ物も美味いと言っています。とても笑顔がやさしい吉夫さん。職員と会話に花を咲かせながら、楽しく暮らして参りましょう。

「昔から、他人と寄合のが苦手で、何でも一人してこなしでたな。」



毎日新聞に目を通し、何でもご存知の吉夫さん
盆踊りには唄い手にもなって下さる万能な方です

280号 光寿人の日々☆



イラスト：1000

コロナ禍2年半... 此程まで人と人が実際に会うことで生まれる力の存在も思い知ることになろうとは... オンラインという新たな面会方法も手には入れたが、直接、ご家族の顔を見た時のお年寄りの喜びの表情は格別だ。おかげさまで。

智慧なき者の夜は長い

法句経

冒頭に掲げたのは、仏教

の歴史でも最も早い頃にまとめられたブツダのことは、翻訳を換えて、全文を紹介すれば次のようである。

眠れない人には夜は長く、
疲れた人には一里の道は遠い。
まことの道を知らない者に、
生死の道のりは長からん。

恩師・竹本白飛先生が老境感懐を詠んだ句に、次のようなものがあった。

長き夜や
まだ生きている 目を覚ます

第79回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

無明長夜という。

先生は奥様を早くに亡くされ、晩年には老健施設で過ごされた。お見舞いに行くといつも静かに読書しておられ、

90歳でお亡くなりになるまで、自己を見つめる目を失うことはなかった。

深夜、目が覚める。まだ生きていた。私はいつまで生きるのか。そういう思いは悲しみではなく、不可思議なる念いのちへの共感なのである。

ブツダのことばは全て、ブツダの体験に裏打ちされている。達人のことばである。

おわりに

「出遇わなければ、こんな目に遭わなくて済んだのに！」
こんな気持ちを抱いた経験はおありだろうか。辛さや悲痛が強い経験ほど、先述のような負の思いが引き出されてしまうのだろう。

「相手のせい」「会社のせい」「世間のせい」と思い込み、苦悩はさらにぬかぬかみにハマッていく。自分以外の外的環境に影響されて人は日々暮しているが、根本問題は外ではなく、対相手や対環境に振り回される私自身の中に在る。苦悩や怒りの原因は自分の中に在る事を知ること。仏教は、その事実を見せてくれる鏡。苦悩は私を気づかせてくれる偉大な縁だ。

※丁寧な時間を掛けて導けば状況は変わる